

紹介文

#### 1-1. Prof. Ziad A. Massy

テーマ : CKD-MBD and Cardiovascular Disease

Ziad A. Massy 先生はフランスの Paris West 大学, Ambroise Paré 大学病院の腎臓内科部門の教授, 診療課長で, フランス国立保健医学研究所 (INSERM) U-1018 team 5 の Co-Director も務められております。専門は, 心血管疾患, 血管石灰化, 慢性腎不全に加え, 脂質異常症, 尿毒症物質, 酸化ストレスなど多岐にわたります。腎臓分野の一流誌に原書論文, 総説を多数発表され, *Kidney International* や *Nephrology Dialysis Transplantation* などの国際誌の editorial board も務められています。また ERA-EDTA Council 委員, ERA-EDTA Registry 議長, Executive KDIGO board コア・メンバー, EURECAM ワーキンググループ, CKD-MBD ワーキンググループ, European Uremic Toxins (EUTox) 議長などの要職を歴任されています。このように大変著名な Massy 先生と discussion したいという若手の先生方の積極的な参加をお待ちしています。未発表データのプレゼンも大歓迎です。ご要望を遠慮なくモデレーターにご相談ください。

#### 1-2. Prof. Tamara Isakova

テーマ : Rationale and Approaches to Phosphate and FGF23 Reduction in Patients with Chronic Kidney Disease

Tamara Isakova 先生は米国 Northwestern University Feinberg School of Medicine 腎臓・高血圧内科の准教授であり、公衆衛生学講座内の Translational Metabolism and Health センターの Director です。

ご専門は臨床腎臓病学全般で、特に CKD 患者における CKD-MBD の臨床研究を数多く手掛けており、これまでにたくさんの publication があります。

テーマは CKD-MBD、特にリンと FGF23 を掲げていますが、このセッションでは広く臨床腎臓病学全般に関して、若手の先生方の研究に対するディスカッションを予定しています。ご自身の臨床研究、疫学研究、Translational research、留学相談に関してアドバイスを頂ける貴重な機会になると思います。若手の先生方の積極的な参加をお待ちしております。また、ご要望を遠慮なくモデレーターにご相談ください。

#### 1-3. Prof. Mark E. Cooper

テーマ : Clinical and Basic Research in Diabetic Kidney Disease

Mark Cooper 先生はオーストラリアの Monash 大学 Central Clinical School、the Department of Diabetes の初代教授に最近就任されています。

以前は Baker IDI Heart & Diabetes Institute の Chief Scientific Officer と Juvenile Diabetes Research Foundation Centre (JDRF) for Diabetes Complications のディレクター

一を務めていました。Cooper 先生はこれらの施設に併設されている Alfred Hospital にて内分泌専門医として現在も臨床をされています。

Cooper 先生はメルボルン大学で医学を学ばれた後に、メルボルン大学のオースティン病院にて内科医としてのトレーニングを積まれました。また、メルボルン大学で Austin Doyle 教授と George Jerums 先生のもとで学位をとられています。

Cooper 先生は過去 15 年間に JDRF のみならず National Health & Medical Research Council (NHMRC) of Australia や National Institutes of Health, National Heart Foundation of Australia や Diabetes Australia and Kidney Health Australia など多数の競争的研究資金を獲得されており、多数の賞も受賞されています。

Cooper 先生の研究分野である糖尿病における腎臓と血管合併症の研究において 1999 年に Eric Susman 賞として the Royal Australasian College of Physicians より表彰されています。

2005 年にはそれまでの糖尿病に関する研究においての目覚ましい業績に対して Australian Diabetes Society の Kellion 賞を受賞されています。

Cooper 先生は JDRF で過去に研究者として表彰されており、1999 年と 2003 年と連続で JDRF からの Centre Grant を獲得されています。引き続きこの仕事は評価され、2009 年に NHMRC より 5 年の Australia Fellowship を獲得されています。

Cooper 先生は現在 JDRF Medical Science Review Committee の Co-Chair として活躍されています。また、定期的に国際学会にも招聘されており 500 本以上の論文の著者でもあります。2016 年には the European Association for the Study of Diabetes より Claude Bernard 賞を、2017 年には American Diabetes Association より Edwin Bierman 賞を受賞され、同年にオーストラリアの勲章 (Officer の称号) を受けています。

この様に糖尿病性腎臓病の分野において多数の賞、grant を獲得されながら世界的な業績をあげられている先生と discussion したい若手の先生方の参加をお待ちしております。

#### 1-4. Prof. Marcello Tonelli

テーマ : Clinical Research on CKD/ESRD

Marcello Tonelli 先生はカナダ・カルガリー大学副学長 (保健研究) かつカルガリー大学医学部上級副学部長 (臨床研究) です。Tonelli 先生は CKD やその他の生活習慣病や心血管疾患の患者に対するケアの改善をテーマに精力的に臨床研究を遂行され、現在までに NEJM, Lancet, JAMA を含む雑誌に 440 本以上の論文を発表しておられます。引用回数で上位 1% の研究者として ”Highly-cited” researcher に 2015 年以來 3 年連続で選ばれていることは、いかに質が高く影響力のある研究をされているかの証明と言えましょう。39 歳の若さでカナダ腎臓学会 (Canadian Society of Nephrology) の President を務められた Tonelli 先生は、現在アルバータ州の分野横断的共同研究体である Interdisciplinary Chronic Disease Collaboration のリーダーであり、予防医学的ヘルスケアのための診療ガイドライ

ン作成を行う Canadian Task Force on Preventive Health Care の名誉会長でもあります。ISN においては Research Portfolio の director の他、プログラム委員会の臨床研究部門の chairperson であると同時に WCN2019 プログラム委員会の deputy chairperson を務めておられます。

このように、数多くの臨床研究を通じて CKD ケアの改善・向上に積極的に取り組まれ、国際的に様々な場で活躍されている Tonelli 先生とディスカッションをする本セッションはまたとない貴重な機会ですので、皆様の積極的な参加をお待ちしております。また、ご要望等ございましたら遠慮なくモデレーターへご相談下さい。

#### 1-5. Prof. Sydney C.W. TANG

テーマ: The Recent Tribulations in Clinical Trial and Basic Research on Diabetic Kidney Disease

Sydney Tang 教授は、香港大学を卒業され、MD および PhD の学位を同大学から取得されました。Tang 教授は、英国 King's College の Guy's Hospital や米国 University of Washington の Seattle Children's Hospital で、臨床と基礎研究のトレーニングを受けられ、現在、香港大学の腎臓医学の主任教授ならびに腎臓学 Yu Endowed Professor として着任しておられます。

Tang 教授の研究領域は、基礎から臨床の広きに渡り、特に糖尿病性腎臓病や蛋白尿性腎障害、IgA 腎症の治療がご専門です。Tang 教授はこれまでに 200 以上の論文や、のべ 25 章におよぶ教科書へ寄稿されているのに加え、KI、CJASN、NDT、American Journal of Nephrology、Nephrology、Journal of Nephrology など数々の腎臓領域のジャーナルの Editorial Board を務めておられます。

学会活動としては、Hong Kong College of Physicians の Chairman for Basic Training や、Royal College of Physicians of Edinburgh の International Advisor の任もお務めです。さらに、現在、香港腎臓学会の会長であり、Asian Pacific Society of Nephrology (APSN) の Executive member、International Society of Nephrology (ISN) の North and East Asia Regional Board、Meetings Committee としてもご活躍されています。また、American Society of Nephrology (ASN) の Kidney Week や ISN の World Congress of Nephrology にて複数の招待講演をされておられます。

2018 年 9 月に中国・北京にて開催されます Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN) においては、Scientific Committee の Subtheme Co-chair もお努めに予定になっております。このように、研究～臨床～学会活動において幅広く、高いアクティビティでご活躍の先生です。

#### 1-6. Prof. Stuart J. Shankland

テーマ: Basic Research on Glomeruli in Disease and Health

Prof. Stuart J. Shankland 先生は University of Washington Medical Center で Division of Nephrology の Head ならび Professor をつとめられる Physician Scientist です。南アフリカの University of Cape Town Medical School を卒業され、Tronto 大学では内科研修医の後、Clinical/Research Nephrology Fellow をされました。特筆すべきはさらにその後 Washington 大学で MBA を取得されたことです!

180 編を超える原著論文の著者であり、Shankland ラボでは糸球体再生や最近話題の glomerulus-on-a-chip を用いた研究をはじめとした 12 ものプロジェクトが進行中です。また、日本との共同研究や日本からの留学生を受け入れておられ、日本とのつながりが強い先生です。

このセッションは、日頃自分が感じている疑問に対して、Shankland 先生を交えて幅広く議論する場にしたいと考えております。特に若手の先生方にとっては、留学・carrier development などについても、貴重な意見をいただけるチャンスです。ご要望・疑問点などを遠慮なくモデレーターにご相談ください。Shankland 先生と打ち合わせのうえ、可能な範囲で参加者の方々のご要望にお応えしたいと思います。

## 2-1. Prof. Xueqing Yu

テーマ : Genetic and Clinical Associated Study for Kidney Disease

Xueqing Yu(余学清)先生は 1984 年に中山大学を卒業され、学位取得後に Monash Medical Center でポスドクとして勤務されました。現在は中山大学第一附属医院腎臓内科教授であり、中国医学会腎臓病学会 2017 年学術年会の学会長、現在の中国腎臓病学会の President を務められています。また Asian Pacific Society of Nephrology (ASPR) の Executive Member、ISN の Global Advancement of Nephrology (COMGAN) の委員として、国際的な立場としても活躍されています。

これまでに基礎研究、トランスレーショナルリサーチ、疫学と幅広い研究を行って来られ、最近では漢民族の大規模な遺伝子解析を主導し、欧米と異なる遺伝的背景が腎疾患の発症や進展に関与する機序について明らかにされています。IgA 腎症 (Nat Genet 2011, Nat Commun 2015, Sci Transl Med 2016)、ループス腎炎 (JASN 2017)をはじめとして、様々な病態についてこれまでに 443 報の論文を執筆されています。

遺伝子を中心とした基礎研究や疫学など幅広い研究に関してご助言をいただける機会があると同時に、急速な発展を遂げている中国の学術研究の現状についても貴重なお話を伺える機会となるでしょう。ぜひご参加ください。

## 2-2. Prof. Vivekanand Jha

テーマ : All Aspects of Nephrology, Global Health

Vivekanand Jha 先生は、Physician-scientist (研究医) としてご活躍され、インドの George Institute for Global Health の常任理事および Oxford 大学の腎臓学教授を兼任されています。

す。基礎から臨床まで幅広い分野の研究を行っておられ、2017年も、急性腎障害（AKI）や腎代替療法からグローバルヘルスまでに関して、多数の報告が *Lancet* 誌や *JAMA* 誌などに掲載されています。また糸球体腎炎や腎移植に関する国際的なガイドラインにも携われ、これまでの功績により、先日、**International Society of Nephrology (ISN)** の次期会長に選出されました。今回のセッションでは、先生のご要望によりテーマを限定せず、参加者の関心に合わせてディスカッションを進めていきます。**Vivekanand Jha** 先生からご自身の研究だけでなく、留学などのキャリアパスに関する助言をいただき、参加者にとって、グローバルな視点を持ち臨床や研究に取り組むエッセンスが得られる貴重な機会となることでしょう。若手の先生の積極的なご参加をお待ちしております。ご要望などございましたらモデレーターにご相談ください。

### 2-3. Prof. Ravi. Thadhani

テーマ : **Angiogenic Factors in CKD and Preeclampsia: Is there a role for Intervention?**  
**Ravi Thadhani** 先生は現在、ロサンゼルス **Cedars Sinai Medical Center** の副学部長です。また、先生はハーバード大学医学部の教授で、2017年11月まではマサチューセッツ総合病院の腎臓内科部長で、かつ **Clinical Trials Office at Partners Health Care** のセンター長をつとめられていました。**Thadhani** 先生は 臨床研究、トランスレーショナルリサーチにかかわってこられ、この16年、妊娠高血圧腎症の診断方法、治療方法の開発のための研究を行ってこられました。**Thadhani** 先生と共同研究者で、妊娠高血圧腎症の新しい診断法を開発され、現在、重症妊娠高血圧腎症の女性の妊娠期間を安全にのばす治療方法の開発に力を注がれています。また、血液透析患者におけるビタミンDの効果について多くの研究にかかわってこられ複数の論文を發表されています。**Thadhani** 先生は *the New England Journal of Medicine*, *the Lancet*, *the Journal of the American Society of Nephrology*, *Kidney International*, and *the Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism* といった主要なジャーナルの査読者としても活躍されています。

**Thadhani** 先生は 2008 American Society of Clinical Investigation, Inducted Member; the 2014 Alumni Award of Merit from the Harvard School of Public Health Alumni Association; the 2015 American Association of Physicians, Inducted Member; and the 2015 Robert W. Schrier Endowed Lectureship from The American Society of Nephrology といった多くの賞を受賞されています。

**Thadhani** 先生の **ISN Frontiers 2018** の **Meet the Professor** のセッションにぜひ、ご参加ください。

### 2-4. Prof. Philip Li

テーマ : **Peritoneal Dialysis-Up To Date**

Philip Kam-Tao Li 教授は、香港のプリンスオブウェールズ病院 (PWH) の腎臓学のチーフです。また、香港の中国大学の医学名誉教授であり、Carol & Richard Yu 腹膜透析研究センター所長でもあります。

Li 先生は 2006 年第 11 回香港国際腹膜透析学会 (ISPD) 会議 (2006 年) および世界腎臓病会議 (2013) の組織委員会委員長を務めました。多くの雑誌に 470 以上の論文を発表されています。特に腹膜透析や残腎機能、心血管疾患、腹膜炎などについての発表が多くあります。Li 教授は ISPD ガイドライン作成にも携わっておられ、ISPD カテーテル関連感染症に関する勧告の 2017 年の改訂にも名を連ねており、腹膜透析に関する経験と知識が非常に豊富な先生でいらっしゃいます。今回のセッションでは、腹膜透析やその合併症、日頃の疑問点などを世界をリードする先生と直接ディスカッションできる貴重な機会となります。若手の先生の積極的な参加をお待ちしております。

## 2-5 Prof. Angela Wang

テーマ : Clinical Research in CKD and Dialysis-related Complications

Angela Yee Moon Wang 先生は、香港大学医学部の Associate Professor で、Queen Mary 病院で Clinician-Scientist としてご活躍されています。

Wang 先生は、CKD における左心室重量に対するパリカルシトールの効果を検討した OPERA 試験の他、CASCADE study や PROOF trial の研究代表者であり、これまで腎臓病領域における数多くの臨床研究を行っておられます。中でも、腹膜透析患者における残存腎機能や CKD 患者の合併症 (特に心血管疾患、心不全、血管石灰化、CKD-MBD、栄養障害) に関する研究分野では、世界的なオピニオンリーダーです。140 編以上の論文の著者であり、多くの学術雑誌 (JASN, CJASN, NDT, BMC Nephrology, Am J Nephrol, Nephron Clin Pract, Nephrology, J Ren Nutr, J Diabetes, Blood Purification, Biomedicine Hub, 等) の編集委員をされています。また、KDIGO、ISN、ISPD、SONG Initiative の委員会メンバーでもあり、様々なガイドライン (KDIGO - CKD-MBD guidelines, KDOQI Nutrition Guidelines in CKD, ISPD PD Adequacy Guideline update 2017, ISPD Adult Cardiovascular and Metabolic Guidelines) の作成に携わっておられます。国際腎臓栄養代謝学会 (ISRNM) の次期会長や、メルボルンで開催される WCN 2019 のプログラム委員、スウェーデンのヨーテボリで開催される ISN Frontiers Meeting 2019 の co-Chair も務めておられます。

このセッションでは、CKD や透析患者の合併症のみならず、腎臓病学全般における臨床研究に関して英語でのディスカッションを予定しています。世界をリードする Clinician-Scientist である Wang 先生に、研究上の疑問やご自身のキャリアパスについてアドバイスを頂く貴重な機会になると思います。モデレーターがお手伝いさせていただきますので、若手の先生方の積極的な参加をお待ちしております。

## 2-6. Prof. Orson Moe

テーマ : Electrolyte and Mineral Metabolism

Orson Moe 先生は University of Texas Southwestern Medical Center の内科学教室と生理学教室の教授であり、臨床から教育、さらに基礎研究から臨床研究まで幅広くお仕事をされています。さらに Center of Mineral Metabolism and Clinical Research のセンター長と腎臓学教室の主任教授も兼ねており、幅広いお仕事をされています。Moe 先生の研究領域は、特に電解質異常やミネラル代謝の病態生理、CKD における心血管合併症、AKI から CKD への病態移行のメカニズム解明などです。